

平成28年第5回田原市教育委員会定例会会議録

1 開会 平成28年5月13日 午前10時00分

2 閉会 平成28年5月13日 午前11時35分

3 会議に出席した委員

花井 隆教育長、横田 威委員、金原真人委員、
山本明子委員、土井真紀江委員

4 会議に欠席した委員

なし

5 会議に出席した職員

教育部長

大根義久

教育部次長兼中央図書館長

豊田高広

教育総務課長

三竹雅雄

学校教育課長

鈴木欽也

生涯学習課長

富田 成

文化財課長

鈴木利昌

スポーツ課長

大羽耕一

教育総務課主任

宮嶋綾子

6 議事日程

別紙のとおり

田原市教育委員会第5回定例会議事日程

日 時 平成28年5月13日(金)
午前10時00分
場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 会議録署名者の指名
- 2 教育長報告事項
- 3 議 題
 - (1) 平成28年度一般会計教育費補正予算について
- 4 報告事項
 - (1) 教育委員連絡報告事項
 - (2) 平成28年度政策課題について
 - (3) 学校再編について
 - (4) 小中学校への寄付について
 - (5) 平成28年度共催・後援事業について
 - (6) 平成28年度学校評議員名簿等について
- 5 その他

教育長

開 会 午前10時00分

皆さん、おはようございます。

御多用のところ御出席くださいます、ありがとうございます。

ただいまの出席者は5名であります。

定足数に達していますので、平成28年田原市教育委員会第5回定例会は、成立いたしました。

これより開会いたします。

それでは、会議規則第13条第2項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。

今回の署名者として、横田委員と土井委員の御両名を指名させていただきますので、よろしく願いいたします。

議題に先立ち、教育長報告事項をお願いいたします。

1枚はねていただいて、前回の第4回定例会の前にもありますが、4月13日、東三管内の校長会と市の校長会が行われました。

4月14日、退任式、4月17日、おんぞ祭り。

4月19日、全国学力学習状況調査。

4月22日、伊良湖岬中と泉中の再編スケジュール打合せということで、教育委員会のほかに渥美地区と赤羽根地区のコミュニティ協議会長さんと関係の小中学校の校長先生にも集まってもらって、今後のスケジュールの説明と意見交換を行いました。

その中で、コミュニティ協議会長さんたちからも、「今後も機会をつくって説明いただきたい」ということで御意見をいただきました

4月26日、市P連総会。

4月27日、三河部都市教育長協議会が知立市でありました。次回、7月には田原市で開催ということで、三河地域の教育長が集まりますので、御承知おきいただきたいと思えます。

5月2日、教職員会総会、お疲れさまでございました。

5月10日、今週の火曜日ですが、三河小中学校校長会総会がありました。平松直巳県教育長さんから、あいさつや教育ビジョンの説明等がありました。

5月13日、本日、教育委員会定例会5回目となります。

5月16日、市教委・高校連絡会で、また高校との連携も進めていけたらなと思えます。

5月21日、小学校陸上大会。

5月24日、泉中学校再編検討委員会、25日、伊良湖岬中学校統合検討委員会があります。

5月28日に小学校運動会。

それから、多忙化解消に向けてということで、また来週、校長会があります。ノー残業デーをしっかりとやってもらい頑張ってもらいたいです。やっぱりゆとりをつくっていかないといい教育ができないな

ということをもう少し浸透させていきたいなと思います。

それから、東愛知新聞に「女子小学生スマホ使用率がこの1年で2倍に増加」と載っております。これは関東地区のデータを載せていたのですが、スマホの小学生の女子の使用率が18.5%に上がったと。これは1年の間にといいことで、この傾向が下がることはないなと思います。

スマホ利用者の80%がゲームをやっている。もちろん中・高・大学生、大人も電車に乗りますと、スマホで、インターネットだけでなくゲームやメールもやっている。全国的にスマホにしがみついているなという状況が今後あまり教育の世界にとってはいいことではないなと私も感じております。

それから、5月10日の三河小中学校校長会のときに平松直巳県教育長が、「自分の職責や立場にもっとも近い人と情報共有や意思疎通を密にすることが大切」。独断に陥ることも避けられるということで、三河の校長先生たちに激励をしながらアドバイスをされていました。

また、野田校区の子たちが田原中学校へ通いだして一月と少しというところ。頑張って通ってくれているのですが、街づくり推進課でベンチ等も田原萱町バス停に置いてくれて、みんなが一生懸命温かく見守ってくれているなという様子は伝わってきます。また何かありましたらお尋ねいただけたらなと思います。

以上で、教育長報告事項を終えたいと思います。何かありますでしょうか。

では、御質問等もないようですので、議題に入りたいと思います。

それでは、議案第17号 平成28年度一般会計教育費補正予算について議題といたします。

事務局、説明をお願いいたします。

初めに教育総務課から説明させていただきます。

2ページ、福江小学校管理教室棟の耐震補強についてです。この建物は昭和56年5月7日に建築確認を経て、昭和57年2月に完成した建物ですけれども、建築確認の日、これは建築基準法で新しい耐震基準になるのが昭和56年6月1日が新しい耐震基準になったわけですが、その前に確認申請を得た建物でした。

昭和57年2月に完成していることもありまして、新しい耐震基準の建物と判断して今まで耐震診断を行ってまいりませんでした。

昨年度、渥美運動公園の体育館にエレベータを設置するときに再度構造設計図書の構造計算書を確認したところ、構造計算が新しい新耐震基準ではないということがわかりまして、その当時、昭和56年5月7日の同じ時期につくった福江小学校管理教室棟の設計書、構造計算書を確認したところ、新耐震基準でないことがわかりました。

昨年度、平成28年3月までに耐震診断を行った結果、福江小学校の

教育総務課長

管理教室棟においても強度不足の箇所が一部ありました。I S値という基準の数字で0.662というところがありました。新耐震基準と同等であるという基準がI S0.6という基準を超えてはありましたが、文科省の定めた目標としています学校施設における基準値I S0.7というのは満たしておりませんでした。

そのため、今年度6月の補正で改修設計費用280万8,000円を予算要求して、平成29年度に補助金を活用しながら1,200万円程度の改修工事を行っていきたくと考えております。

耐震補強内容としましては、ブレス2ヶ所、スリット2ヶ所、袖壁2ヶ所を考えています。そのための設計費用を補正予算で計上するものでございます。

1枚めくっていただきますと、A3の予算要求調書になります。

予算要求調書3ページに、福江小学校管理教室棟耐震改修工事設計工事設計料280万8,000円とあります。設計期間は約6カ月の間違いですので、よろしく申し上げます。

次に、1枚めくっていただきまして4ページ目です。中学校管理運営事業、東部中学校の体育館のタイル張りの目地部分から水が浸入して浮き上がっているところがありました。平成28年3月に校舎東面タイルが落下して小規模修理を緊急に行いました。また、校舎壁面及び体育館のタイルの状況を確認したところ、外壁の浮き及び外壁タイルの落下の危険性が確認されたため、外壁の浮き補修及びタイルの落下危険防止のための補修工事を行っていきたくと思っています。金額は766万8,000円を予定しております。

5ページ、寄附金でございます。野田の河合組さんから野田小学校の教育活動支援・充実のために10万円、匿名希望の方から田原中部小学校の図書館整備のために10万円いただいております。それぞれの小学校へ図書購入費として配当していく予定でおります。

教育総務課からは以上です。

続けて、学校教育課から申し上げます。

先に8ページをごらんください。

国からの委託金と県補助金の対象となった事業が二つありますので、その補正であります。

8ページに示してありますのが一つ目、国庫支出金としまして、首長部局等との協働による新たな学校モデル構築事業委託金146万2,000円です。昨年度の後半から始めた事業で、2年目になります。1年ごとに申請をしていく事業です。

事業内容は、6ページに戻っていただきまして、歳出予算見積書の事業概要に簡単に載せさせていただいております。

共育推進事業の一つで、地域と学校がかかわり子どもたちを育てていくという活動で、福江中学校がモデル校となっております。福江中

学校教育課長

学校が地域のまちづくりに参画をしていく学習で、高校とも連携しながら進めていく形の事業でございます。

子どもたちのプレゼンテーション研修、あるいは教員も対象としたまちづくりのセミナー、あるいはこういった活動を行っている先進校などの視察費用の予算化をしております。これが一つ目の事業でございます。

もう一つの事業は、8ページの裏側です。歳入予算見積書の地域未来塾という事業でございます。これも共育関係の事業でございますが、愛知県学校支援地域本部事業費補助金として、愛知県からの補助金の交付対象事業となったものであります。

今までなかった事業ですので、次のページの地域未来塾6月補正についてという資料で説明させていただきます。

当初予算で計上した予算よりも多く交付決定がありましたので、その差額分を増額補正するものです。

地域未来塾については、9ページの資料をごらんください。学習支援が必要な中学生や高校生などを対象とした事業です。学校の中でというよりは、地域の方たちにお手伝いをいただいて、学習がなかなか自分でできない子、あるいは家庭的な事情で塾へ通うことができない子の学習支援事業であります。

形としては、特定の校区と相談させていただいて、田原中学校、東部中学校、福江市民館、赤羽根学園の四ヶ所でそれぞれ週1日程度展開していく形です。

田原中学校と東部中学校については、どこの中学校もだいたい木曜日がノー部活デーとなっていますので、部活動のない日に子どもたちが帰った後の授業後1時間ぐらいを、教室を借りて外部の方に入らせていただいて、希望者を募って授業を行っていく形です。福江市民館と赤羽根学園については、学校以外で会場を提供していただいて進めていく形でございます。

こういった事業について、県支出金の交付内示額が82万2,000円で、当初予算が37万4,000円でしたので、その差額分の44万8,000円を今回6月補正で出させていただいているものでございます。

以上です。よろしくお願いいたします。

スポーツ課です。

1枚めくっていただきますと、10ページ、渥美運動公園体育館の耐震補強について報告します。先に福江小学校の耐震工事の話でもありましたとおり、昨年度、本施設にエレベータを設置するにあたり、再度、構造計算書等を確認したところ、構造計算が新耐震基準ではないことが判明しました。本施設は災害時の避難所に指定されており、IS値0.75の基準を満たしておりませんでした。避難所ということで、通常の0.6よりも1.25倍のIS値が必要ということで、0.75という数値

スポーツ課長

	<p>を基準とするわけですが、0.6も満たしていないエリアが出てきましたので、耐震改修工事をやっていくものです。</p> <p>予定としましては、今年度、約6ヶ月で設計業務を行い、新年度に補助金をもらいながら、工事期間は約6ヶ月、概算工事費は約1億4,400万円、武道場とアリーナと両方にブレースを入れていく工事の計画をしております。</p> <p>次のページに渥美運動公園体育館等耐震改修工事設計業務費864万円の補正予算を計上しております。</p> <p>私からは以上です。</p>
教育長	<p>事務局からの説明が終わりました。</p> <p>御質問等ございますか。</p>
金原委員	<p>体育館の耐震補強の場合は、基本的にどこを補修していくのですか。</p>
スポーツ課長	<p>基本的には、体育館のアリーナ側壁面にブレースとっては要は筋かいを入れていく工法です。</p>
山本委員	<p>ブレースは、どんな感じになりますか。</p>
スポーツ課長	<p>市役所の中にもありますが、バツテンが入っています。</p>
教育長	<p>教育長室にも筋かいが入っております。</p>
横田委員	<p>何点かいいですか。まず7ページ、有料道路通行料とありますけれども、これだけの学校を視察に行かなければならないのですか。</p>
学校教育課長	<p>中高一貫教育の先進校がたくさんありまして、実はことしから、福江中学校と福江高校の連携を考えていくことが本格的に始まっていきます。両校とよく相談したところ、ぜひ視察に行かせてほしい、校長先生方からもできるだけたくさんの職員にかかわっていただいで進めていきたいという要望が強く出まして、学校の声を尊重させていただく形で計画させていただきました。</p>
横田委員	<p>例えば研究を担当する人があまり重なっていくと多忙につながってくる。</p>
学校教育課長	<p>担当者が重ならないように学校としては計画しています。</p>
横田委員	<p>学校の要望があれば仕方ないと思いますけれども、ちょっと多いかなという気がしました。</p> <p>それから9ページの地域未来塾の件で2点。</p> <p>まず1点目は、実施場所について、これも要望を聞いてだと思えますけれども、田原中学校、東部中学校、赤羽根学園と場所が限定されると、ほかの地域の子が行けなくなる可能性があると思えますがいかがですか。</p>
学校教育課長	<p>田原中学校、東部中学校、赤羽根学園については、各学校の生徒限定です。</p>
横田委員	<p>不公平ではないかという気がします。地域未来塾のように一般のいろいろな子を対象にしてやるなら、福江市民館などの場所のほうがいいのかなという気がします。</p>

学校教育課長

おっしゃるとおりです。

地域未来塾という事業は、福江市民館で行うような形態でやることを想定して出てきている事業ですが、田原地区だと学校の校長先生とも相談をさせていただいたのですけれども、なかなかそういった場所で開催すると、子どもたちにも声をかけにくいということでした。それなら学校の授業後、学校にいる延長でやるような形であれば子どもたちも参加しやすいということで、学校とも相談させていただいて、そういう形ならうちの学校にもチラシを配布してやらせてもらいますよというような形で受けていただいた形でございます。

今までにないことですし、そもそも経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難な中学生・高校生への学習支援事業です。そういう形でうたってしまうと、手を挙げる人はなかなかいないと思いますし、学習が遅れがちで個別に見てもらいたい子というのも対象としているものですから、そちらのほうを少し全面に出すような形で、子どもたちも手を挙げやすい、参加しやすい形で校長先生方とも相談させていただいて始めさせていただきました

横田委員

先ほど塾という名前を挙げられました。一般の塾と同じように扱われやすいので、塾という名前よりも違う名前のほうがいいのではないかと思います。

学校教育課長

そうですね。

ただ、文部科学省のほうから地域未来塾という名称で来ているものです。

横田委員

例えば福江市民館みたいなのところだったらいいのですが、学校の中で行われることだと、そこはちょっと考えておいたほうがいいのかと思います。

学校教育課長

そうですね。教育委員会が行っている事業で、営利を目的としたものではないということはわかるようにしたほうがいいですね。

横田委員

幾らそう思っても、一般市民の方は、塾という言葉が先行してしまうので、そうした点に気をつけてほしいです。

2点目は、講師謝礼についてです。教員OBが2,200円で、一般の人が1,000円になっています。同じように教えるなら、同じ講師料が妥当と思う。何で教員OBがそんなに高いのか。ここも一般の方々から見ると、教員は優遇されていると思われるかなと。

学校教育課長

それは、教育の専門家として長年やってきた方がそういった経験を生かしてよりよい指導をしていただけるので、そういった方にぜひとも大勢入っていただきたいということです。

横田委員

それは逆ではないですか。最初だからなかなか集まらないからということだとすれば、地域住民の方々が熱意を持って、半ボランティアみたいな形でやっていく方向に持っていくのが本来の姿だと思う。

学校教育課長

実際には、例えば東部中学校で教えてもらうのは、東部中へ非常勤

講師で入っている先生にお願いして、プラスしてそこでもやってくださいというような形で、任用を変えてお願いしてやっていただいているという形になっております。

地域の一般の方に、ここでちょっと子どもに教えてくださいというのが、やっぱり現状ではそういった方をお願いしていくというのが現段階では限りなく現実的ではないかなということも実際にはあるのですが、御指摘いただいたことはまた考えさせていただきますけれども、一応今回このような形で計画をしましてしておりますので、本年度についてはこの形で進めさせていただきたいと今考えています。

地域住民で実際エントリーされている方はいますか？

赤羽根塾と福江市民館に来てくださる方が教員免許をお持ちだったかと思います。教員OB以外で、担当者の知り合いとしてお願いしている方もおります。

それに準ずるものという文言も入れてありますので、教員でなくても豊かな経験をされてきて、準ずるものであると判断すれば、当然2,200円の報酬で対応させていただければと思います。

教育活動支援員とは違いますね。

直接、指導していただくので、やっぱりだれでもできるというものではないということもあって少し差をつけているものです。

免許がないで、学校現場ではやっているけれども、これは学校の枠を出たところなので、地域住民1,000円といってもやることは同じなので。

塾を経営していた人が今やめて、こういうことに入ったときでも、一般の人の扱いですか。

子どもを教えた経験があるということで準ずる人と考えられます。

要するに、本来の目的は生活困窮支援の一環ということですが、それをうたわずにやるわけですか。

そうです。

塾へ行っている子も入れるのですか。

こちらが指定している時間に出席できる子を対象にしています。

定員はありますので、希望者が多い場合には抽選等で選ばせてもらいます。実際、現在生徒を募集中です。実際に子どもたちがここに出てくるのかまだわかっておりません。

地域未来塾については、平成31年度末までという見通しもあるものですだから、もう少し見ながら、目的に合った学習支援になっていくようにと思います。

きょうも実は、豊川市の学校教育課長のほうから問い合わせをいただきました。豊川市議会でも地域未来塾について豊川市では実施していないが、近隣市の状況について質問が来たとのことでした。地域未来塾という事業そのものは、知っている人は知っているような感じで、

横田委員 今広がりつつあるような感じです。

教育長 学校外の場所で開設するならいいのですが、学校の中だと誤解を招く可能性があるので、そこが気になりました。

教育長 そのほか、いかがでしょうか。

教育長 では、お諮りをしたいと思います。

横田委員 議案第17号 平成28年度一般会計教育費補正予算について、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

教育長 (「異議なし」の声あり)

教育長 御異議がないということですので、議案第17号につきましては、原案どおり可決いたしました。

教育長 次に、教育委員連絡報告事項について、委員の方々からの御報告をお願いいたします。

横田委員 5月2日に教職員総会に出席させていただきました。

教育長 各教科部会は、自分が自主的に勉強したい専門教科以外の部会にも入れるわけですが、部員数が多いところで40人もいるのに、少ないところは一桁台で差が激しいことが以前からずっと問題になっています。

金原委員 教職員会の会長さんも、何とか解決したいと言っているのですが、1年で会長が変わっていくので次につながっていかない状況です。新しい方向性を出して、ぜひそうしたところを何か変えられるといいかなと思いました。

山本委員 金原委員。

土井委員 私も5月2日、田原市の教職員総会に出席させていただきました。ことしの新規職員はかなり元気がいいなと感じました。

教育長 山本委員。

教育長 私も金原さんと同じ5月2日の教職員総会に出席させていただきました。やっぱり新人の空気は一番ですね。こちらでも元気をいただく感じはしました。

教育長 土井委員、いかがですか。

教育総務課長 私も教職員総会に参加させていただいて、今回2回目になって何となく雰囲気はわかって来たのですけれども、やっぱり先生たちは先生たちなりにいろいろな活動をしているんだなと改めて知ることができました。

教育長 ありがとうございます。

教育総務課長 では、委員さんからの報告を終えまして、次に平成28年度政策課題についての報告をお願いします。

教育総務課長 最初に教育総務課からお願いいたします。

教育総務課長 小中学校の再編についてです。望ましい教育環境の構築と児童生徒の教育状況の改善、小中学校の適正規模による教育を進めるために地域と意見交換を重ねて、地域からの意見を十分に尊重して小中学校の

学校教育課長

再編に取り組むということで進めていきたいと思っております。

平成28年度の取組内容といたしましては、伊良湖岬中学校統合検討委員会の開催、泉中学校再編検討委員会の開催ということで、先だっでもお示しさせていただきました10月ごろまでには教育委員会として決定をしていきたいということで、これからの検討委員会を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、学校全体配置計画の見直しということで、各校区の状況に応じた学校全体配置計画の見直しを今年度末までに検討していきたいと考えています。

次に、小中学校施設整備計画の策定について、老朽化が進んでおりますので、将来的な計画を立てていこうと考えております。

その際には、学校再編や人口動向も踏まえて平成28年度末までには整備計画をつくっていききたいと思っております。

教育総務課からは以上です。

続きまして、学校教育課からお願いします。

学校教育課は大きく二つのことを挙げてあります。

一つ目が学校教育振興計画の策定についてであります。

教育委員会の中で学校教育課だけ1年遅れておりますが、学校教育振興計画を今年度策定してまいりたいと思っております。

昨年度よりワーキング会議を開催して骨子案についてまとめてきております。本年度の6月には策定委員会をお願いしまして、そこから本格的に始めていく予定で、本年度4回ほど策定会議を持ち、完成に向けて進めていきたいと思っております。

学校教育進行計画の内容としまして、ふるさと教育の推進は、以前からのものを大事に今後進めていくということ。それから学力の向上、それから、豊かな心の育成、いじめ防止もここに入ってくるかと思えます。それからキャリア教育の推進、共育の推進、こうしたことを大きな内容として組み立てていきたいと考えております。

年明けの1月には完成する予定で考えておりますので、教育委員の皆様方にも途中経過などをまた報告させていただきたいと思えます。

それから、もう一つの大きな点として、連携型中高一貫教育の検討ということで、先ほども福江中学校と福江高校のときに話を少しさせていただきましたが、本年度よりこのことに向けて本格的に検討を始めていく予定でございます。

私たち教育委員会と県の教育委員会にも連絡を取りながら、該当する2校とで会合を重ねて、子どもたちにとってよりよい教育になっていくのかということで連携の在り方をよく検討していきたいと考えております。

今後の予定としては、本年度のうちにある程度方向性をつくり、来年度から連携できる部分から少しずつ始めていきます。子どもたちの

例えば、先ほど出てきましたまちづくりの関係で、例えば福江中学校の子と福江高校の子たちが総合的な学習で一緒に共通して取り組んでいくような活動。そうすると福江中学校で学んだ3年間のことが高校のほうへ行ってもそのまま生かされて、より深めていくことができることや、それ以外にも両校で連携が図れる部分について動けるところから進めていき、実際には連携型中高一貫校の入試として入試制度も変わってきます。今、私たちは平成31年度入試から取り入れていくのかなと考えています。実際に連携教育の中で育った子たちがその入試制度を利用して福江高校に進んでいく、あるいは、ほかのところへ進んでいく形になるのかなということであると、来年から少しずつ実際の活動に取り組んで進めていく用意をしております。

学校教育課からは以上です。

生涯学習課長

1枚めくっていただいて、生涯学習課からお願いします。

生涯学習課からは、社会教育施設の適正化ということで、公共施設適正化計画の実施計画の作成を考えております。

現状といたしまして、市内にある20市民館、築30年を超える市民館が10館あり、中には40年を超える施設もあるということ。市民館の中には多目的ホールが併設されていないものと併設されたものがあるということ。3番目に、田原、赤羽根、渥美の3カ所の文化ホールの一部施設の老朽化が進んでいるということ。4番目に、田原市生涯学習振興計画には今後の活用方針等までは踏み込まれていないということで、実施計画をつくっていききたい。

課題といたしましては、田原市公共施設適正化計画を踏まえて老朽化してきた市民館の改修計画をつくっていききたい。多目的ホールについても、考え方を整理していききたい。また、利用度が低く、使われていないものについての施設の方針をどうしていくか決めていききたいと思っております。

策定方針としましては、耐用年数、劣化度を把握して、施設の更新、廃止等も含めて検討していききたい。

田原市公共施設適正計画に基づく、ほかの施設との統廃合、多機能、他自治体との連携の可能性なども検討していききたいと考えております。

また、そのほか、施設の長寿命化に必要な予防保全というものも計画に盛り込んでいききたいと思っております。

以上です。

スポーツ課長

続きまして、スポーツ課です。

渥美半島駅伝競走大会の開催ということですが、

伝統ある大会として65年間引き継がれてきたのですが、2012年12月の大会中に事故がありまして、それを受けて今は休止状態といなっています。豊橋に事務局がある東三陸協というところを中心に、この大

会は高校生を始めとする陸上で長距離をやる人たちの登竜門的な大会で、従来からAチーム、Bチーム、Cチームと長距離をやっている人がすべて出られるような大会で、みんなが最後、総仕上げで出る大会として親しまれてきた大会ということで、復活の声が強くあります。

そうしたことを受けて着々と事務局で進めてきた中で、おおむねですけれども、コースが少し短くなりますけれども、今の想定ではまだ警察協議も進めていませんが、赤羽根市民センターをスタートして豊橋南高校がゴールというような案で今進めておりますけれども、距離も短くなりますけれども、関係機関にアンケートを取ったところ、距離も短くなったことで参加もしやすいという声も一部あります。いろいろな声をいただきながら進めていきたい。

ただし、事故があって休止している状況ですので、警察協議が相当厳しい状況にあります。今、実業団駅伝が同じ11月中旬にやっておりますけれども、一千何百万円かかる経費を、今まで渥美半島駅伝は数百万円でやっていたところですが、例えば実業団駅伝だと、コースにかかわる脇道すべての走路に補助員がついていたのですけれども、渥美半島駅伝ではそういう形が取れない中で事故が起きたということですので、復活するに当たってはそれなりの配備等がいるということで、予算的な対応や運営体制など、まだ課題が山盛りありますけれども、まず警察協議から始めて、ことしの12月にはおおむねめどを立てて、来年の12月には大会ができるように今進めている状況です。

今後、十分警察協議を中心に復活できるように頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

文化財課長

続きまして、文化財（博物館資料を含む）の適正管理について御説明いたします。

現状につきましては、渥美郷土資料館周辺、それから赤羽根文化財収蔵庫、これは旧成章高等学校赤羽根校舎のことです。校舎だけでなく、比較的新しい施設として武道場、それから大分老朽化しておりますが体育館等も附属をしております。それから一部、赤羽根トレーニングセンターにも資料を入れさせていただいております。

特に赤羽根文化財収蔵庫につきましては雨漏りが進んでおります。それから赤羽根トレーニングセンターにつきましても耐震工事が特にされていない施設でございますので、できるだけ早く新たな収蔵箇所を探していきたいと考えているところでございます。

特に平成28年度につきましては、方針を策定し、平成29年度以降につきましては実際に移動をかけてまいりたいと考えております。

以上でございます。よろしく申し上げます。

教育長

政策課題についての報告がありました。

御質問、御意見等ありますか。

金原委員

渥美半島駅伝は、今までは男子と女子で距離が違ったのだけれども、

スポーツ課長

今回、赤羽根市民センターから豊橋南高校ということになると、女子も男子も一緒のコースになりますか。

距離の話も含めて、コース、中継地点などもまだ正式には決まっておきませんので、スタートとゴールは一応コース全体の絵としては警察には一度は示してはおりますけれども、詳細な調整は今からということですので、よろしくをお願いします。

教育長

次に、学校再編について報告をお願いします。

教育総務課長

14ページの資料をお願いいたします。

4月22日に、先ほど教育長さんからもありましたが、渥美地域と赤羽根地域の校区会長さんと関係小中学校の校長先生方に集まっていたきまして、伊良湖岬中学校及び泉中学校の再編について打ち合わせを行いました。

前回の資料と特に変わってはおりませんが、伊良湖岬中学校と泉中学校につきましても、平成27年度中の決定の予定でしたが、方針の変更をさせていただきまして、平成28年度中の早い時期に統合先、統合時期について決定をしていくということをお知らせしていただきました。今後のスケジュールにつきましては、5月下旬に伊良湖岬中学校、泉中学校の平成28年度第1回目の検討委員会を開催する予定となっております。

校区会長さん方からは、平成27年3月31日付けで渥美8校区から要望のありました新設中学校について質問がありましたが、皆さんにもお知らせしてありますように、新しく中学校を新築するというよりも、福江中学校を改築して対応していく計画でいる旨を説明しました。

ほかに、野田地域が田原中学校に統合となった状況を知らせてほしいという意見もありました。通学方法を気にされる方もいらっしゃいましたし、統合してよかった点がわからないと中学校の統合もできないのではないかとというような御意見、なかなか地域で決めていくのは難しいので教育委員会でリーダーシップをとり、引っ張って行ってもいいんじゃないかということをおっしゃっていらした方もおりました。

この5月には伊良湖岬中学校と泉中学校の検討委員会をそれぞれ行う予定であります。

泉中学校再編検討委員会につきましては、5月24日に夜7時から行います。伊良湖岬中学校統合検討委員会につきましても、5月25日に行っていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

検討委員会の委員さんにつきましても、ことしは一部前年の方、前校区会長さんや自治会長さん方、PTA会長さん方には数名残っていただいて、全く役職で全員変わってしまうのではなくて、そういう体制の検討委員会にして進めていきたいと思っております。

今まではそういった方がいらっしゃらなかったもので、会議の中で決まったことがなかなか伝わらなかったようなことがありましたので、

そのような委員選定で行っていきたいと思っております。

また6月には、福江中学校と赤羽根中学校の学校見学会を開催していこうと考えております。6月8日には福江中学校、6月24日には赤羽根中学校で、午後から学校の概要説明をさせていただいて、授業と部活動の参観、見学をしていただこうと考えております。

両校とも同じような形でやろうと思っております。小中学校と保育園の保護者、検討委員の皆さんに御案内を出して参加を呼びかけていこうと考えておりますので、よろしくお願ひします。

その次の15、16ページには、泉中学校のアンケート結果を載せてございます。

統合先についてはどちらがいいかというようなことですが、赤羽根中学校60、福江中学校13、どちらでもいいという方が22というような結果が出ておりますので、またごらんになってください。

あと、次のページ以降には具体的な御意見が載せてあります。これらの御意見を、方向性を考えていくのに反映させていこうと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

学校再編については以上です。

説明が終わりました。

御質問等ありましたら、お願ひします。

細かい意見はある意味さまざまなものです。

保護者の意見は赤羽根が多い。

泉地域では赤羽根中学校と福江中学校とどちらが近いのですか。

例えば泉市民館から考えると、距離はそんなに変わらない状況です。

あと、統合の時期についてですが、アンケートでは、「泉中学校の統合時期は、いつがよいと思ひますか」という問いだったので、「同時に同じ学校へ行くなら同じ時期がいい」というような答えになったのかなと思ひます。

例えば、ばらばらに分かれると同じ時期ではなくてもいいという答えになるのかもしれない。「伊良湖岬中学校と同時期、平成30年4月がよいですか」という問いだったので、「同時期がよい」が66と、「遅らせるのがよい」が22となったのかということもあると思ひます。

例えば統合先が違ふと、このとおりのアンケート結果になるのかどうかは少し微妙なところかなと思ひます。

親が友達の輪ができてるところと後から入るのは不安だというように書いてあります。

例えば福江中学校なり赤羽根中学校なり、同じ時期なら一緒に行きたいという感じかなと。

アンケートの声も受けながら、アンケートだけで短絡的には決められないところはありますが。

部長から初めて行っての感想をお願ひします。

教育長

山本委員

教育総務課長

山本委員

教育長

教育部長

この前の説明会では、いろいろな御意見があるなと思いました。学校は、確かにコミュニティの支柱、精神的な支柱みたいな場所が小学校あるいは中学校にあるかもしれませんが、あとはやっぱり学校ということであれば、お子さん、あるいは保護者の方の御意見が尊重されるべきなのかなという発言をされた校区会長さん、そうは言ってもアンケートは尊重していかなければというような御意見もありまして、ああいったところが最終的な本音の答弁なのかなと感じました。

また一方で、これもしっかりこちらも言っていかなければいけないなと思ったのは、新設の渥美中学校というのが渥美地域の要望であって、それに対して将来的にというような話で説明をしてきた。それが市の方針と調整しながら、福江中学校の改築という形で、総合教育会議の中でもそういう話題もあったと思いますけれども、そういうことを考えてくると、渥美地域のコミュニティという部分と、保護者の皆さんの声、あるいは子どもたちの声をどう整理するのかというところがあるかなと感じています。

ただ、学校そのものが子どもたちの社会性を高める場所であるということであれば、最終的にはそこに重きを置かれるべきではなかろうかという感じを個人的にはしています。そうした点をどう御理解をいただいていくのかなというところは、これからという気がしています。

教育長

はい。特に渥美8校区のコミュニティ協議会長が一緒になって、渥美地域で中学校を一つ新設してほしいということのを要望書を出して来たところ返事がないということでした。要望書にすべて市から返事ができるかどうかもあったのだけれども、こうやって渥美も赤羽根も校区長も入ってもらって話をする機会は意義があったかなと思います。

ですので、やっぱり動く側、それから受け入れ側を含めて、相互理解の中で進めていくべきだろうなと思っていますので、ちょっと厳しい言い方もあったけれども、やってよかったかなと思います。継続して報告していくことが必要かなと思います。でないと、いい統廃合はできていかないなと。やっぱり動く側、受け入れ側も納得の中で、すべての納得は難しいと思いますけれど、できるだけ納得を得る中で進めていけたらなと思いますし、今回また泉中学校と伊良湖岬中学校で始めますが、去年の委員さんたちにも入ってもらって、ことしの委員も加えて、できるだけ幅広く見ていくことで何とか秋ぐらいには考えております。その中にはまた一度地域に返して意見を聞くというようなときもありますので、できるだけ意見はすべて出し尽くしたところで受け入れる部分と受け入れられない部分が出てしまっていますが、納めていきたいなと思います。

アンケートを見ると大分煮詰まりも感じられるかなというようですので、もう少し時間をかけながら、あまりじらさないようにいいタイミングでということで、7月ごろの会には具体案をみんなでもんでも

らうようになるのかなと思っております。今月の検討委員会では新しい委員さんも入って来ますので、もう一度説明して、今までの疑問等を解いてもらって前へ進めるようにと思っていますので、よろしくお願い致します。

よろしいでしょうか。

では、続きまして、小中学校の寄附についての報告をお願いします。17ページの寄附一覧をお願いいたします。

補正でもありましたけれども、株式会社河合組さんから現金10万円、匿名の方から現金10万円の寄附をいただいたものです。

あと、株式会社三富さんから小中学校へ「自然浴生活のすすめ」という図書を24冊いただいておりますので、報告させていただきます。

寄附については、以上です。

御質問等ありますか。

ないようですので、続いて、平成28年度の共催・後援事業についての報告をお願いします。

平成28年5月現在の共催と後援事業について一覧表にしてあります。

続いて、スポーツ課もありますけれども、例年のスポーツ大会を始めとしたいろいろな各種大会から共催・後援依頼が出て、現在の状況についてです。

共催・後援事業について、よろしいでしょうか。

では続いて、学校評議員名簿等について、報告をお願いします。

20ページ以降、学校評議員の集計表、名簿がつけてございます。

23ページには田原市給食センター運営委員会委員名簿、24ページには田原市社会教育委員名簿、25ページには田原市青少年問題協議会委員名簿、26ページには田原市青少年健全育成推進員の名簿をつけさせていただきましたので、ごらんください。よろしくお願い致します。

またごらんいただいて、何かありましたら担当のところへお尋ねいただけたらと思います。

では、その他でよろしくお願い致します。

それでは、27ページをごらんいただきたいと思います。委員の皆さんには4月28日に、田原市を含めて豊橋市、豊川市、蒲郡市の4市の校務支援システムの開発業務にかかる公募型のプロポーザルを中止した内容をお知らせさせていただいたと思います。内容的にはプロポーザル、公募、公告をしていく中で、公告ファイルに不適切な表示がありましたので、豊橋市が中止をいたしました。

当初案では5月30日に決定するという形でありましたけれども、プロポーザルの公告を6月24日に行って、今の予定では年度内に開発を進める予定でいますので、御承知おきください。

次に、2017ワールドサーフィンゲームス大会の誘致についてお願い

スポーツ課長

します。

それでは、2017ワールドサーフィンゲームス大会の誘致について報告させていただきます。

平成28年5月25日から29日の間、市長、私とサーフィン関係者で渡米予定です。2017ワールドサーフィンゲームス大会は、国際オリンピック委員会（IOC）の国際競技連盟（IF）である国際サーフィン連盟（ISA）が約2年に1度、サーフィンのオリンピックとして世界各地で主催する大会で、来年9月に田原市に誘致しようということで今回の渡米の目的になっています。大会を誘致することで本市のサーファーを中心とする移住の促進、シティプロモーションにつなげていくことも目的としております。またあわせて、オリンピックの誘致にかかわるロビー活動もあわせてしていきたいと思っております。

以上です。

教育長

ありがとうございました。

本日の議事はすべて終了しました。

これをもちまして、田原市教育委員会第5回定例会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

閉 会 午前11時35分